



秋に実る

一年の成果

広がる市民芸術



安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館

No.22 2014.12.3

TEL62-4565

平成26年度 安曇野市文化祭

10月18日から11月9日にかけて、各地域で文化祭が行われました。

展示芸術・工芸作品のほか、ステージ発表や菊花展など、盛りだくさんの内容で、市民が身近に芸術に親しむ機会となりました。



櫻

秋の文化祭の会場入り口では、見事に仕立てられた菊花が迎え入れてくれました。

菊の原産は中国大陸で日本には奈良時代に渡来、江戸時代に改良が進みました。鑑賞用としては、管物、厚物、平物などに分けられるそうです。秋を代表する花でもあります。家紋にも使われています。玄関口などで見かける玉状の菊も、気分を転換させてくれます。

穂高神社のあづみ野菊花展では、菊を手塩にかけて育てた自慢話を聞くことができます。

会場に所狭しと展示された数ある作品の中、知人の名前を見つけて日常生活の姿と異なった顔を発見しました。

安曇野市民のきらびやかな芸術作品が一堂に会する実りの秋を堪能しました。(Y・U)

三郷祭は、10月18日から11月1日にかけて開催された。三郷文化公園体育館の文化産業展には、書道、絵画、写真などの写実作品に、俳句、短歌、絵手紙などの文芸作品、押絵、押花、陶芸などの工芸作品や、三郷昆虫クラブの見事な標本が、所狭しと並べられた。

押花に取り組む白意はつみさんは、花だけではなく木の皮やフルーツの皮を乾燥させて使い、絵画と見分けがつかない風光明媚な大正池の風景を展示した。

木船富恵さんは、山野草の盆栽を数年かけて作り上げ、風情のある作品を12鉢出品した。



三郷文化祭



三郷中学校の講堂では、音楽発表会「市民ふれあいコンサート」を開き、鑑賞した200人余りは芸術の世界に浸っていた。「もみじ」や「信濃の国」を皆で歌い、三郷小学校、三郷中学校の合唱部の歌声や、三郷中学校吹奏楽部の迫力ある演奏に聞き入っていた。

三郷公民館のロビーでは「菊花展」が開催され、小菊盆栽会や個人の愛好家の作品を中心に見事な彩りを見せた。色鮮やかに咲き誇った美しい菊は、学校帰りに立ち寄る小中学生や、公民館利用者の目を楽しませていた。

講堂では「芸能発表会」を開催し、外部の大会で入賞実績のあるバレエの舞台発表などが行われた。公民館講座からクラブを結成し、活動を続けているフラダンスサークルも練習の成果を披露した。

豊科文化祭

あづみ野大鼓保存会の勇壮な太鼓演奏をオープニングに、豊科地域芸能発表会がサントピア豊科ふれあいホールで開催された。

導引養生功、太極拳、吟詠剣舞、民謡、オカリナ、日本舞踊、琴、ダンス、バレエ：多くの分野にわたる芸能発表の数々。日ごろの練習の成果を発表する貴重な機会である。ほかの団体の演技を熱心に観賞する姿も見られ、交流も生まれていた。

ことしは公民館の改修工事の関係で、会場が変更となり出場できない団体もあったが、参加団体の皆さんの素晴らしいステージに圧倒され、元気をいたたく1日となった。



豊科文化祭恒例の菊花展。紅葉真っ盛りの一乗寺での開催。素晴らしい菊の数々が並んだ。菊愛好家にとって、1年間の集大成のこの時期、丹精込めた花々には神々しさが漂っていた。

最優秀賞は丸山斌さんの三本仕立て、手前の二本は同じ高さ、奥の一本は少し高く仕立てられ、花びらの色・数・美しさ、葉っぱの色艶、そして何より全体のバランスが素晴らしく、思わずため息が出してしまう。

一本の菊が織りなす、さまざまな仕立てと表情、そして辺り一面に漂う高貴な香りに、うっとり癒やされるひと時であった。

穂高文化祭

穂高文化祭は、体育館が改修工事のため、2週にわたって講堂で開催された。

「総合美術展」は10月24日から26日まで開かれ、開場式は唐木教育委員長を迎え行われた。

学芸部の書・絵画・ビデオ・華道・彫刻・木彫・ひょうたん・押絵・木目込人形・押花・水石・きもの、小中学生の絵画、個人出版の作品が展示された。いずれも力作が揃い、来場者は作品に見入っていた。

「芸能まつり」は11月1日から3日まで行われた。1日は午後から第3回カラオケ発表会が行われ、30人がステージで熱唱した。2日、芸能まつり第一部が講堂で



行われ、舞踊、民謡、マジックなど20組の参加者が舞台上で練習の成果を披露した。3日の第二部では、オープニングセレモニーで会場にいた全員で『紅葉』を合唱した。

琴、コーラスなど7グループと、穂高北小学校、穂高東中学校合唱部が歌声を披露した。モダン・ジャズ、穂高西小学校、穂高東・西中学校の吹奏楽部の演奏もあり、手拍子で会場内は盛り上がった。

穂高神社の境内では、盆栽、山野草展、あづみの菊花展、穂高人形、御船保存会3教室の展示が、10月24日から11月16日まで行われた。「菊花展」では、小菊・大菊・盆栽など320鉢の大小さまざまな菊が展示され、参詣客を楽しませていた。



堀金文化祭

堀金文化祭は、10月31日からの作品展示に始まり、11月1日にステージ発表、2日に堀金一周駅伝大会を行った。

作品展示は書道、水墨画、絵画、写真、短歌・俳句など文芸作品が多数出品された。地区公民館女性部の講習会作品が来場者の目を引いた。

ステージ発表の「まどいの広場」では堀金小学校金管バンド部と堀金中学校吹奏楽部が演奏を披露し、常念祭で研鑽を積んだ堀金中学校常念太鼓(赤鬼塾)の威勢のいいステージ発表があった。「堀金芸能祭」では民謡、詩吟、常念太鼓、大正琴、横笛など日本古来の響きが流れた。欧米の音を感じさせるスクエアダンスや、キッズ



ダンスがあり、オカリナ演奏に堀金小学校合唱部、コーラスグループなどが発表した。



明科文化祭

明科文化祭は11月1日・2日の日程で、明科公民館で市民の日ごろの創作活動の成果を持ち寄って行われた。

展示会場は、明科高校生の書道、美術、華道をはじめ、明科中学校の立体作品、明南・明北小学校の書道も注目されていた。

蒐集作品としてもっとも目を引いたのは熊井恵美子さんの蝶の標本で、アサギマダラ・セセリチョウ・シジミチョウの170頭の採集の展示だった。作者がいかに心を込めて仕上げたのか、迫力感のなかに美しさが伝わってきた。鑑賞する人たちは「すごい」「真似はできない」「よくやったなあ」



と感嘆の声。
和裁や編み物の展示スペースでは「似合うかしら」と作品を手にする人もいて、充実した1日だった。
芸能発表会は、明南・明北小学校の金管バンド部の合同演奏で幕が開いた。舞踊やダンスは練習の成果を披露し美しく舞ってくれた。ハーモニカの宮下豊光さんは、独奏の全日本コンクールの決勝に出場した音色を聞かせてくれた。私たちの身近には、人知れず磨きをかけている人たちのいることを知った芸術の秋だった。

堀金一周駅伝大会

晩秋の堀金路を駆ける

「堀金一周駅伝」は堀金全9地区を中継する地区公民館対抗競技で通算50回を数える。堀金支所をスタートして10区間、全長17.3kmのコースを小学生から一般男女、区間ごとの代表選手が襷を繋ぎ、再び堀金支所のゴールへ向かう。

秋の堀金路を、9チーム中4チームが首位に立つ激しいレースを演じた結果、8区の田尻中継所でトップに立った上堀地区が、1989年(平成元年)の第25回大会以来、25年ぶりに3回目の優勝を飾った。中堀中継所の1区から飛び出した中堀地区は4、5、6区と1位に立ったが4位でゴール。2区、下堀中継所から3区の扇町中継所までは下堀地区が抜け出して結果は3位。7区、小田多井中継所で首位を奪った倉田地区が準優勝を飾った。



第1回大会は、1965年(昭和40年)、旧堀金小学校を発着点に各地区公民館から精鋭男子10人が出場して開かれた。1978年(昭和53年)長野国体の開催を機に、第14回大会から男女年齢別が導入され、後に発着点の変更もあり、今日の編成に至っている。

〈お詫びと訂正〉

公民館報第21号に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

2ページ 3段9行目

〈誤〉建壮団 〈正〉健壮団

明科公民館長の任命

安井邦夫さんが明科公民館長に任命されました。任期は平成26年11月1日から平成28年10月31日までです。



明科公民館長 安井邦夫